

令和7年度 北区地域保健推進協議会 摘録

日 時：令和7年10月29日（水）午後2時～4時

場 所：北区役所西庁舎2階 講堂

出 席：委員19名（欠席5名、うち委任状提出4名）

事務局9名（川妻北区長、吉田保健福祉センター長、四元健康長寿推進課長、黒田健康長寿推進課担当課長、石川障害保健福祉課長、竹中子どもはぐくみ課長、大原保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課担当係長、横田地域支援係長、豊坂地域支援担当）

（司会） 四元健康長寿推進課長

1 川妻北区長挨拶

事務局より本会の出席人数について報告

出席が過半数を超えており、会議が成立していることを確認

2 委員自己紹介

事務局職員紹介

事務局より「地域保健推進協議会」について説明

3 議題・報告

（1）部会長、副部会長の選出について

部会長に北医師会長 竹中委員を、副部会長に西陣医師会長 金光委員を選出

（2）北区役所保健福祉センターの取組について

資料により各担当から説明

（説明者： 黒田健康長寿推進課担当課長、大原保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課担当係長、石川障害保健福祉課長、竹中子どもはぐくみ課長）

委員からの質問なし

(3) 意見交換

保健福祉センターの取組等に対する意見を、委員から一言ずついただく。

(委員) 京都市は、がん検診、特定検診の受診率が低い。コロナの影響はあるだろうが、検診会場が地元の小学校等から、区役所に変更になったことも影響しているので、会場を地元小学校等に戻してもらうよう京都市に要望している。

(委員) 多彩な取り組みは素晴らしい。Y o u T u b eでの広報は、若者に対するPRになるので良い取り組みであると思う。がん検診の受診率の低さに驚いた。この対象者に会社員は含まれるのか。

(事務局) 資料に記載の受診率は、京都市が実施しているがん検診を受診した方のみを対象としている。

(委員) 以前にB型作業所に関わったとき、精神に障害がある方、または、心に障害を持つかもしれないと不安になった方が、気軽に相談できる機会や場所があれば良いと思ったことがある。

(委員) 食育セミナーへの参加者が少ないよう思う。規模を増やしてはどうか。小学校に直接声を掛けたら、ひと学年全員を対象としたセミナーが開催できると思う。

(委員) 特定検診の受診率が低いことは気になる。受付を手伝うことがあるが、小学校等で開催していたときは、もっと受診率が高かった。事前に芽を摘むためにも、受診率を上げることが必要で、そのためには受診しやすい小学校等に会場を戻すべきである。実現はできないのか。また、地域の健康教室等に対して、今後も保健福祉センターのサポートを期待する。

(委員) 学生に関わる心の問題、精神障害、自傷、発達障害、オーバードーズ等の問題に、学生相談室と健康管理センターで対応しているが、医療受診につなげる必要が多く、職員の知っている医療機関を紹介しているが限界もあるので、保健福祉センターに相談に乗っていただけると助かる。

(委員) 母子保健について、経産婦でも気軽に訪問指導を希望できる仕組みにしてはどうか。大きな困り事はなくとも、訪問を希望している親はいる。

- (委員) 医療について、「病院よりも家庭（地域）で過ごしましょう」と言う方もおられるが、家庭で面倒を見る方やサポートがあれば、自宅に戻れる高齢者もいる。病院側からサポートを地域に要望しにくい。高齢者が地域で生活できるサポートを区役所に期待する。赤ちゃんも大切だが、高齢者も大切にしてほしい。また、キタエちゃん体操は非常に良いので、広めていってほしい。
- (委員) 各保育園に寄贈いただいた「かっちゃん鼻水でた」の紙芝居を活用させてもらっている。大人にも見ていただく機会を広めてほしい。それが、子どもに良い影響を与えることになると思う。また、保育園で気づいた子どもの発達の遅れなどを、保健福祉センターを通じて保護者に助言していただいていることは大変助かっている。赤ちゃん広場は良い事業なので、より多くの人に知っていただきたい。
- (委員) 北区高齢化率が京都市で2位になった背景には、独居の世帯数も増えている。孤立、孤独が減るようにしたい。集まることが苦手な人も多いので、個人個人で取り組める健康長寿の取り組みも進めてほしい。
- (委員) 児童虐待、高齢者虐待の背景には精神障害や認知症が隠れているケースもある。本人の同意を得て行政に知らせ、行政とのつながりを持つてもらうようにしている。
- (委員) キタエちゃん体操やインターバル速歩への参加者が固定してきていくことと、男性の参加者が少ないことが気になる。健康寿命を考えると男性にも参加してほしい。夏季や冬季に健康教室が休みになることについて、空白期間ができないよう開催方法を考えてほしい。センター養成については、教室の後に雑談ができる時間を設ける等新しいことを取り入れていける工夫をしてほしい。
- (委員) いろいろと改善し事業を取り組んでもらっている。

事務局から

- (事務局) 精神疾患等について、気軽に相談できる場所がないのかという質問については、京都市は「こころのサポートふれあい交流サロン」事業があり、北区にはサロンが2カ所ある。ご存知ない方への周知をしていく。また、(区で実施している)「精神保健福祉相談」では、人との付き合い方への不安や不眠など、医療につなげるかどうかを含めて相談できるので、気軽に相談に来てほしい。ご存知ない方に知らせていただけるとありがたい。
- (事務局) 特定検診等の会場について小学校等に戻す(復活する)という話はないが、今後とも本庁の所管所属に、そういった御要望があることについて話をしていくのでご理解いただきたい。
- (事務局) いただいた多岐にわたる貴重なご意見については、今後の地域福祉、地域保健の取組みに活かしていきたいので、引き続き皆様にはよろしくお願ひしたい。

4 吉田保健福祉センター長挨拶

(以上)